No.10 多発しているはしご等 - 墜落・転落の死亡災害事例（2019年）

2019年発生月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故 の型 コー ド	労働 者 規 模
5	16 ～ 18	個人住宅の屋根の防水工事を行っていた被災者が、当日予定していた作業を終え、既設の屋外階段を使用して屋上から2階の庇に降りた。その後、2階の庇に立てかけたはしごを使用して地上に降りようとしたところ、はしごを踏み外して、約3.8m下のコンクリート床面に墜落した。	30201	371	1	1～ 9
12	12 ～ 14	ビル外壁改修工事において、現場付近の道路上で倒れている被災者を同僚作業員が発見した。被災者の負傷状況や倒れていた位置などから、くさび式足場の妻側の枠材はしご（踏み棧は45cmの等間隔）を昇降中、墜落したと推定される。	30202	371	1	10 ～ 29
11	10 ～ 12	以前に屋根葺き替え工事をした民家の、雨樋の追加設置工事に先立つ現状確認のため、客先で家屋の1階部分の屋根に上り、更に2階部分の屋根に上ろうとしたところ、屋根の上に立てた梯子（脚立を開いたもの）が倒れたため地面に墜落し首の骨を骨折し心肺停止状態となった。24日後に頸髄損傷により死亡した。	30202	371	1	1～ 9
2	8 ～ 10	個人宅屋根修繕現場において、下屋根部に設置した梯子を降りている途中に約2.5m下のコンクリート上に墜落した。病院に搬送され入院治療を受けていたが、後日死亡したものの。	30202	371	1	1～ 9
	12	個人住宅のベランダ改修工事において、代表者と被災者の2名で作業をしていたところ、脚立を広げた状態にしたはしご上でベランダ部材の取り外し作業をしていた被災者が墜落したものの。発生後に被				1～

1	～	14	<p>災者は車両内で休憩してから、代表者とともに代表者宅まで戻ったが、その後被災者との連絡が途絶えたため、翌日の夜に代表者が警察に通報し、被災者の実家兼資材置き場となっている建屋内で倒れている被災者が発見された。</p>	30202	371	1	9	
7	10	～	12	<p>看板の取り付けを複数名で行っていた。被災者ははしごを使用し看板の位置決め作業を行っていたところ、はしごから4m程度下のアスファルト上に墜落した。被災者は保護帽、墜落制止用器具は未着用。病院へ搬送されたが、その後死亡した。</p>	30209	371	1	10 ～ 29
3	16	～	18	<p>防水工事を行う予定になっていたマンションに何らかの作業を行うために被災者が訪れた際、屋上からアルミ製の脚立をはしご仕様にして立てかけ、庇に向かって何段か下ったところ、被災者が下ることにより重心が建物と反対側に移動した。その結果、脚立が建物と反対側に傾き、被災者とともに7.91メートル下の地上まで墜落したものである。なお、脚立はしごは固定することなく使用していた。</p>	30209	371	1	1～ 9
2	14	～	16	<p>電柱に取り付けられた街路灯（高さ約4m）をLED照明に交換するため、電柱に立て掛けた「はしご」上で作業を行っていたところ、バランスを崩し「はしご」から道路上に墜落し死亡したものの。</p>	30309	371	1	1～ 9
11	12	～	14	<p>被災者は電気工事を行っていた。当日は社員寮3室のエアコン交換中、2室目（5階）のベランダの約10m下の路上に倒れているのを発見された。一人作業で目撃者はいないが現場の状況から、壁のエアコンホースを通す穴（高さ約2m）のホース周囲のパテ埋め作業のため脚立に乗っていて、ベランダの手すり壁（高さ約1.4m）を越えて墜落と推測。</p>	40201	371	1	100 ～ 299
10	10	～	12	<p>造園会社所属の被災者が脚立の脇で倒れていたもの。もう一人の作業員（一人親方）が現場を離れていた間に、被災者が脚立（天板までの高さ2.7メートル）を使用し、一人で立木の剪定作業をし、脚立から墜落したと推定される。脚立は倒れておらず、被災者が倒</p>	60101	371	1	1～ 9

		れていた場所は脚立から約3メートル離れていた。				
1	12 ～ 14	高さ約4mの雨どい修理のため、脚立を使用して作業していたところ、バックしてきたフォークリフト（最大荷重1.15t）が脚立に接触し、バランスを崩した被災者が、高さ2.8mから墜落して被災したものの。	60101	371	1	10 ～ 29
7	10 ～ 12	雑木林で伐木作業を行ったところ、つるがらみ木であったため、完全に倒れずにつるを支えに宙に浮いた状態となった。現場にいた被災者と事業主で処理方法を検討したところ、ある程度絡まったつるを切ってから移動式クレーンで牽引して引き倒すことにした。被災者は、当該伐木に梯子を掛けて手鋸でつるを数本切ったところ、突然、伐木が倒れたことから振り落とされ、3.5m程下の斜面下の地面に墜落して死亡した。	60201	371	1	1～ 9
11	10 ～ 12	被災者は、高さ2.5メートルの金属製の棚に扇風機を置くために、高さ170センチメートルのアルミ製の脚立をはしご状にして立てかけて昇りはじめたところ、脚立がすべって倒れ、約70センチメートル下の床に墜落した。救急隊が到着して容体を確認したところ、同労働者は多発性外傷で意識不明の重体であった。午後、搬送先の病院で死亡した。	80409	371	1	10 ～ 29
3	10 ～ 12	マンション2階エレベーターホール天井のLED電球交換作業時に脚立から転落、頭部打撲による両側脳挫傷により5日後に死亡したもの。ヘルメットは着用していなかった（天井は高さ2.64m、脚立は高さ1.17m）。	80409	371	1	1～ 9
1	10 ～ 12	被災者が脚立を使用してマンションの7階廊下で清掃作業を行っていたところ、約18m下の地上へ墜落したものの。	80409	371	1	50 ～ 99
9	14 ～ 16	天井に設置された防犯カメラの配線取り回しを直す作業を、脚立（天板高さ1.43m）に乗り行っていた際、脚立から落ち床面に後頭部を打った。	110101	371	1	300 ～ 499

9	12 ～ 14	清掃作業員（被災者）が脚立（天板までの高さ約80センチメートル）を使用し、玄関のガラスを雑巾で水拭きしていたところ、脚立ごと転倒したもの。	140101	371	1	10 ～ 29
5	18 ～ 20	修繕担当の被災者が、当日午後から客室棟をつなぐ高さ約19mの渡り通路（小川の上に架けられたものでガラス張り）のガラスを外から雑巾で拭いていた。渡り通路の外側に手すり状の柵があり、その内側に脚立を設置し、ガラスを拭いていたところ、その下の小川で倒れているのを発見された。	140101	371	1	30 ～ 49
1	10 ～ 12	事業場内の倉庫の裏に生えていた樹木の枝が伸び、同樹木の葉が倉庫の屋根の樋に溜まってしまうことから、被災労働者が同僚1名と共に、樹木の剪定を行うこととなった。被災労働者が、脚立〈天板高2.85メートル〉を設置し、同脚立の踏みさん〈地上高さ2.6メートル〉を足場にして、チェーンソーで樹木の枝切り〈枝までの地上高さ4.5メートル〉を行っていたところ、同脚立上から墜落し、その後死亡した。	140302	371	1	30 ～ 49
7	16 ～ 18	被災者は、立体駐車場の蛍光灯交換作業（高さ2.3m）を行っていた。脚立1段目（高さ21cm）に足を引っかけた状態で倒れている状態で発見された。近くに新しい蛍光灯があった。被災者の身長168cm、ヘルメット着用なし。なお、被災者は単独作業を行っており、災害発生直前の状況を目撃していた者はいない。	150101	371	1	30 ～ 49
1	0 ～ 2	ごみ焼却施設において、1号灰押出装置の警報が発報したため、被災者が復旧するために現場に向かった。復旧作業は、点検口の下端高さ165cmの点検口（100×73cm）から鍬等を使って灰を掻き落とす作業である。点検口の前には、4段式の点検台（4段目高さ120cm）が横向きに設置されていたが、被災者の動向を確認するために場内を巡視していた者が、その点検台の前にうつ伏せで倒れている被災者を発見した。	150102	371	1	10 ～ 29
	10	事業場敷地内に植えられた樹高3.3mほどのヒバ（アスナロ）の				10

9	～	剪定を、脚立に上って作業していたところ、バランスを崩し約1.	170201	371	1	～
12	9～2.	2 m墜落し、頸部損傷により死亡した。				29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_36.html